

企業経営者との対話を重視した 「責任ある投資活動」とは ～ 3月決算企業の株主総会ラッシュを控えて～ 6月14日（木）11:30-13:00

HOYAとペンタックスのM&Aで投資会社のスパークスの考え方が鍵を握ったように、機関投資家の一挙手一投足が、株式市場の動向だけでなく、企業経営そのものにも影響を与えるようになってきました。

日本の株式市場で、約7000億円を運用する英国の大手機関投資家であるハーミーズ・ペンションズ・マネジメントの日本株投資責任者が株主総会ラッシュを控えて来日する機会に、その投資理念や投資手法について講演します。

ハーミーズがうたう「責任ある投資活動」とは何か、企業経営者と株主はどう向き合うべきか。機関投資家の考え方をすることで、企業側や個人投資家がとるべき今後の方針もみえてきます。

※ハーミーズ・ペンションズ・マネジメントは1983年、ブリティッシュ・テレコムとブリティッシュ・ポストオフィスの年金が合併する形で設立。95年以降は、ほかの年金基金などの運用も始めた。

現在、他の年金基金、保険会社など約240の顧客を持ち、委託運用総資産額は約690億ポンド（16兆5600億円：2006年12月末現在）。同基金の特徴は年金基金の運用を主体とすることから長期の株式運用をベースとして、企業経営者との対話を重視した『責任ある投資活動（Stewardship）』を提唱している。同基金が持つ影響力はその巨額運用額のみならず、運用スタイル、情報収集・分析力において英国、欧州における機関投資家中核的存在として位置付けられている。



Dr. Mike Connors（マイク・コナーズ）

1949年生まれ。ハーミーズ・ペンションズ・マネジメントのシニアアドバイザー、ニッセイ・ハーミーズ・スチュワードシップ・ファンドのシニア・アドバイザー（2005年2月より）。同ファンドはハーミーズとニッセイ・アセット・マネジメントの協業で、日本市場向けに組成、運用されている。コナーズ氏は英国シェフィールド大学から日本学（労働経済学）で博士号を取得、東京大学でもポスト・グラジュエイト・コースを履修している。ジャーディン・フレミング（Jardine Fleming）証券会社でセル・サイド・アナリストを勤めた後、同社調査部部長として日本に滞在。その後、同氏はコーポレート・ガバナンスの独立系コンサルタント会社を設立（2002年）し、各種の投資組合の理事を歴任した。

場所：日経 Notio（丸の内オアゾビル 1F 00《おお》広場横）主催：日本経済新聞社
共催：『M & A Review』（M I D Cグループ）後援社：Hermes Pension Management Limited
定員：70名 参加費：無料 締切：6月6日（水）

申込方法：参加希望の方は下記 URL、もしくは日経ノティオ受付にて用紙にご記入ください。

※応募者多数の場合は抽選となります。

抽選結果はE-mailでご案内いたしますのでご応募はメールアドレスのある方に限らせていただきます。

<http://nikkei-notio.com/event.html>

お問合せ：日本経済新聞社広告局 TEL03-5255-8355